

岡山大学広報

いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

育てたいのは、
科学の視点で
新しいものづくりに挑む人。

大学院ヘルスシステム統合科学研究科の新設



Vol. 89

2018

CONTENTS

岡山大学の研究誌

考古学・博物館学 光本 順

グローバル人材育成特別コース

HISTO+REAL / OU NAVI

育てたいのは、科学の視点で新しいものづくりに挑む人。

大学院ヘルスシステム統合科学研究科の新設

平成30年4月、岡山大学は「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」を新設した。岡山大学としては実に13年ぶりとなる「研究科」の誕生。本研究科が開設に至るまでの背景、その経緯、そして目的など、構想当初からプロジェクトの中心メンバーとして尽力し、現在は研究科長として本研究科を牽引する、妹尾昌治教授がその想いを語った。



Masaharu SENO

妹尾 昌治 (せのお まさはる)

■役職
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 教授 研究科長

■専門分野
細胞の分化増殖を制御する因子の研究をはじめとし、がん細胞を標的とするドラッグデリバリーシステムの研究を手がけてきた。この中で、標的となるがん細胞の研究を進めるうちに、世界で初めてIPS細胞を利用してがん幹細胞の作成に成功し、2012年にPLOS ONE誌に発表。この論文へのアクセス件数は、これまでに2万6千回を上回る。さらに17年には、がん幹細胞からがん関連線維芽細胞が生まれることをScientific Reports誌に発表した。この論文は同誌の年間Top 100に掲げられている。この独自の手法による新しいがん幹細胞研究から新しい発見が続き、世界が注目している。

新たなものづくり、
制度の創出を担う
次世代の人材育成が急務。

研究科長
妹尾 昌治

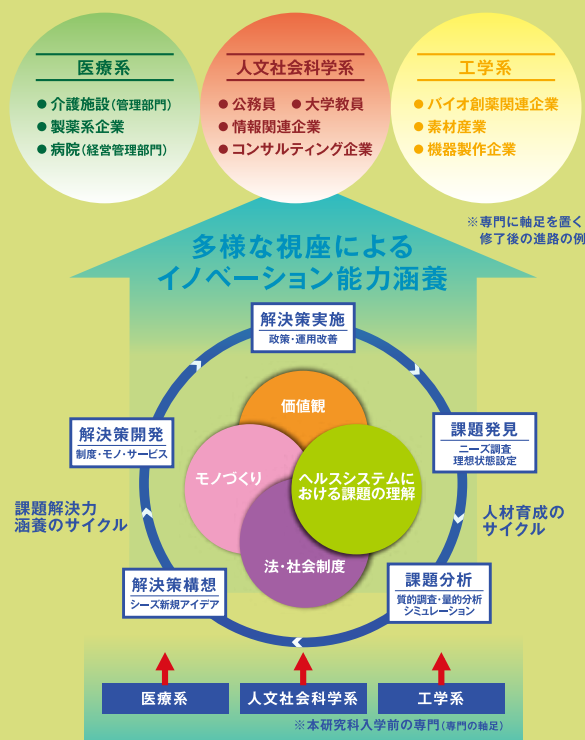
現在 私たちは少子高齢化や地域経済社会の疲弊などさまざまな問題に直面しています。日本だけでなく、世界各国でもこれと同様の課題に直面していくことでしょうか。これに対する具体的な解決策としての、「新たなものづくり」や「制度の創出」は急務で、それらは社会で広く活用され、人々に幸福をもたらすことが望まれています。

具体的には、創薬や医療機器といった医学分野には「こんな機能を追加してほしい」「ここを改良したらもっと使いやすいくなる」といったニーズがあふれています。一方、理工学系学部は、それぞれが独自の技術やノウハウを持っています。

イノベーションを創出する 医工連携+文理融合の視点。

これまで日本は欧米諸国と比較して半導体工学や精密機械工学、バイオテクノロジーの分野で先駆的な成果があつても、実際の医療現場への導入は遅れていました。また、それに伴い、医療機器の貿易赤字が拡大基調にありました。そこで必要なのは文系の教育だと私たちは考えました。発見や発明を実際に社会で実用化していく際には、文系的な視点(経済学、法学、哲学、経営学等)が不可欠です。

本研究科では、岡山大学の多様性に満ちた教育環境を生かしながら幅広い視点で物事を捉え、オリジナリティあふれる柔軟な発想で新しい知識、新しいアイデアを生み出せる人材を育てたいと思っています。そのためには10年、20年といった長いスパンで本研究科をブラッシュアップしていく必要があります。そういった意味では、今スタート地点に立ったばかり。これから挑戦が始まります。





副研究科長
五福 明夫 (ごふく あきお)

副研究科長
出村 和彦 (でむら かずひこ)

副研究科長
兵藤 好美 (ひょうどう よしみ)

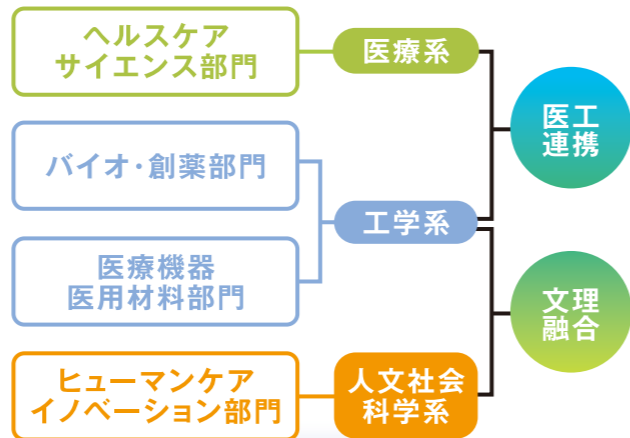
副研究科長
早川 聡 (はやかわ さとし)

意味では、本研究科の目的にかなり合致した研究を続けてきたと思っております。実際、整形外科や歯学部との共同研究も過去に行っており、今後はさらに親密になっていくものと期待しています。今は人工関節、主に金属やセラミックスを使ったものを扱っていますから、ものづくりの面から医療機器の改善などに貢献できる人材を育成したいですね。実際に現時点では医療分野に興味のある学生が集まっています。私たちが扱う医療材料は普段は外から見えるものではないし、一般で売っているものでもないイメージしにくいのですが、企業とも連携を図り、学生たちに興味を持ってもらえるよう授業も工夫していきたいと考えています。

経歴 出村先生と兵藤先生いかがですか。

出村 最初のワーキンググループの頃から先生方の話には、響いてくるものがありました。私は古代ギリシア哲学と古代キリスト教思想史が専門ですが、貧困や老い、病気といった人間の弱さから哲学を見直す研究を続けています。いわゆるネオ・ジェントロジー(新しい老年学)の視点に立つて日本人の死生観、老い、死、看取りを考えていく。そして人文学研究がどうやってケアの現場に関われるのか。本研究科の誕生によって、具体的に取組める環境ができたと思っております。さらに本研究科には、さまざまな分野の

【図】研究を軸とする部門の設置 (教員のグループ分け)



このような教員組織により、いずれの学系の教育を受けた者も、もとの学系の専門をより豊かにする多様な科学的思考の方法と、そこから導かれる視座を得ることができる。

教員が多数参加しています。技術と科学の関係や具体的に臨床の場での死生観を専門としている先生、ソーシャリーイノベーションを専門とする先生などジャンルも多彩です。学生には、「統合科学」の多様性と深さを感じてもらいたいですね。

兵藤 本研究科の副研究科長に就任する前は、保健学研究科で教授を務めており、専門は「看護」です。「看護」は食べる、寝る、住まうをフォローするある意味、人間の生活そのものに関する本人やサポートする人が、どれほど大

変なものなのか、学生に経験してもらい、ものづくりに生かしてもらおうよう導くのが私の使命です。学生たちには医療の最前線を体験させて、現場のニーズを吸い上げる役目を担ってもらいます。「現場を見る」「現場を知る」。学生たちのためにどうすべきか、学生たちの声を聞かせてもらいながら、次のステップにつながる実習にしたいと思っています。その辺りを踏まえ、現在岡山大学病院での実習を検討中です。学生たちが本研究科で学んで良かったと思えるような実りのある実習にしたいと思っています。

大学院ヘルスシステム 統合科学研究科。 その魅力と展望を 4人のキーマンに聞く。

「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」には工学、医薬・保健学、文学、社会学など多彩な専門分野の教員が集っている。今回、妹尾研究科長をナビゲーターに4人の副研究科長がそれぞれの専門領域の強み、カリキュラムの特徴、決意を語った。

出村 私たちが目標とするのは「より良いヘルスシステムの構築に資する人材の育成」です。それに対して、学生たちにどんなアプローチができるのか。それぞれの専門分野を含め、先生方がイメージする人材をお聞かせください。まずは五福先生と早川先生いかがですか。

五福 私は生命医用工学、インタフェースシステム学などが専門です。本研究科では研究企画を担当しています。

具体的に本研究科で育てたい人材は、医療現場においては、現場を構成するスタッフとともに現場での課題を理解できる人で、研究や技術開発においては、自身のそれまでの専門分野を生かしつつ、他分野も理解しながらモノやアイデアを生み出せるような人です。

早川 私はもともと工学系の出身ですが、医療材料が専門です。そういった

ヘルスシステムとは？

本研究科が掲げる「ヘルスシステム」のヘルスは英語の「Health」＝「人間が病気に影響されず、健康で幸せであることすべて」の意味。システムも英語「System」＝「構成要素とそれらの相互関係のすべて」を指している。これらを合わせて、本研究科名の「ヘルスシステム」は、「人間が健康で幸せであるための構成要素と相互作用のすべて」を意味している。

カリキュラムへのこだわりとは？

健康に関わるさまざまな現場で、「Health Systems」をテーマに課題やその背景を発見、解析し、解決策を創り、使うことで、現場の改善につなげていく。課題抽出から改善に至るサイクルを科学的に実践する課題解決能力を育てることを目標としている。

統合科学が意味するもの

科学技術の各分野(医薬系・人文社会科学系・工学系)の方法や知識を統合し、活用する能力を醸成していく。そのため学位名称には国内初の「統合科学」を付している。



今年4月に行われた看板除幕式の様子

妹尾 では、具体的にどんな学部出身者が、どんなことを学び、どんな成果を出せるのか？まず文理融合の象徴でもある人文系の出村先生からお願います。

出村 医療現場を構成する人々とその仕組み（ヘルスシステム）、そしてその課題、具体的には病気や障がい、死に直面した人の生き方、いわゆる死生観などを学ぶことができます。その上で自分の専門分野を深化させ、さらにはヘルスシステムを理解するために必要な医療系工学系の学際的知見を会得できます。その成果としては、例えば終末期の患者のQOL（生活の質）を向上させる要件の分析

や、在宅介護における家族の負担を軽減する仕組み作り、医療者の負担を減らす要件の発見などが考えられます。

妹尾 工学系ではどうでしょうか？

五福 医療者の負担軽減や患者のQOL向上のためのアプローチ法を理解するとともに、人文社会科学系の視座や手法を習得することができます。成果としてはQOLを損なわない、あるいは向上させる機器の創出、病巣を効率的に制御でき、体への負担が少ない医療材料の創出などが考えられます。

妹尾 医療系ではどうでしょうか、兵藤先生。

兵藤 医療に対する工学・人文社会科学の視座を習得するなど、異なる分野の知識を身に付けることができます。具体的には医療現場でそれまで考えつかなかったアプローチで斬新な解決法を見いだし、社会に向けて提案できる能力を会得することを目指しています。成果においては五福先生の内容に加え、ミスを防ぐための医療ハードやソフトの共同開発、ワークライフバランスを実現できる働き方制度の確立などが考えられます。

早川 聡 (はやかわ さとし)

■役職
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 教授 副研究科長

■専門分野
専門は、無機バイオ材料工学。人工骨や人工関節に用いられているガラスやセラミックスの化学的性質と生体組織との適合性の関係に着目し、無機物質の構造を精密に制御することにより、材料表面で異物性の生体反応を惹起せず、生体組織とよく適合し、組織の再生・再建に役立つ医用材料の研究・開発と関連する教育に取り組んでいる。

Satoshi HAYAKAWA



課題を自分で見つけさせる。
動機付けがある方が
学生は確実に伸びる。

妹尾 先生自身が感じる本研究科の魅力を率直に語ってください。また、本研究科で学ぶ学生たちに何を望みますか？

早川 学生たちには課題を自分で見つけさせる、自ら問題提起してテーマや問いを見いだすことが大切だと私は考えています。言い換えるなら、いろんな視座に立つて物事を見つめるということ。その理由としては、動機付けがある方が学生は確実に伸びるからです。近年、学部教育は易しい方向に向かって行つた。しかしながら大学院教育は専門性が要求される。そのギャップを埋めるのが本研究科です。実際のところ、大学にいたる超高齢社会を実感できないんです。本研究科はそうした日本の現状に対して、迅速に対応できる統合科学に取り組むつもりです。そういった意味では日本の最先端かもしれませぬ。

五福 いろいろな専門分野の人と接し、話すことは自分が成長する糧となります。そして成長したという実感が得られます。私自身、本研究科を立ち上げる過程でさまざまな人に出会い、楽しい経験をさせてもらいました。学生たちにもそういう気持ちを体感してほしいですね。今の学生は、たくさん情報を集めるのは得意ですが、自分の頭の中で消化できていない。だからこそ、いろんな人と交わることで多様な視点や見方、考える力を育てる。「専門の前提を覆す」、それがインベーションにつながると思っています。

出村 五福先生のお話、とても哲学的ですね、ワクワクします(笑)。もともとサイエンスの語源はラテン語の「シエニアア知ることの意味」。本研究科では「知る」ということの根本的な意義、サイエンスの本質をも一度見つけ直したい。「知る」を取り戻す、とも言います。妹尾先生が以前、本研究科の誕生について「ブレークスルーを感じる」「モノを知ること」に数学や文学といった垣根はない」と言われていたが私も同感です。本研究科の存在は、本学が推進するSDGs(国連が掲げる持続可能な開発目標)達成のための課題解決的思考ができる人材の輩出にも貢献できると思っています。

兵藤 学生も教員もそれぞれが夢を語り、希望を語る。学問の垣根を越えて、自ら学びとる人間を育てる。本研究科にはぜひそうなってほしいと思っています。そのためには学生や研究者、教員が同じ土俵で会話でき、意見を交わす環境を育むことが大切だと考えています。

妹尾 本来、モノを知ること、文系や理系といった仕切りはないんです。数学とか理科とか文学とか…分けているのは教えるための便宜上の問題で、全てはつながっています。文理融合は、ソクラテスやプラトンの時代から受け継がれている考えで、そういう

兵藤 好美 (ひょうどう よしみ) Yoshimi HYODO

■役職
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 教授 副研究科長

■専門分野
社会心理学の視点から、医療事故防止に関する研究に取り組む。最近では医療安全教育の構築をテーマとし、「レジリエンス・プロセスモデルに基づく医療安全のゲーミングシミュレーション法の開発」に取り組んでいる。医療現場ではどのような人達、どのような方法によって、事故が未然に防がれているのかを明確にし、それらを現場に適用することを目指している。ゲーミングシミュレーションでは、現場で再現できないヒューマンエラーをゲーム化し、事前の体験を事故防止に役立てることを目指している。またKYT(危険予知訓練)についても、尺度開発等の研究に取り組んでいる。

五福 明夫 (ごふく あきお) Akio GOFUKU

■役職
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 教授 副研究科長

■専門分野
専門はヒューマン・マシン・インタフェースやシステム工学。現在の研究テーマには大規模工学プラントに異常や事故が発生した場合の運転員を支援するコンピュータシステムや操作手順書のあり方の研究、球状の回転子を電磁力により任意の回転軸で回転させる球面モータの研究・開発、医療従事者を支援する人工現実感応用システムやロボットシステムの開発などがある。特に、長年研究を続けている機能モデルを基礎として、工学プラントの緊急事態にレジリエントに対応するための代替対応操作手順の自動生成手法を提案し、国内外の研究機関と連携してシステム化を進めている。



専門の前提を覆す。
それがインベーションにつながる。



「知る」を取り戻す。
サイエンスの本質を
見つけ直したい。

出村 和彦

(でむら かずひこ)

■役職
大学院ヘルスシステム統合科学研究科 教授 副研究科長

■専門分野
専門は、哲学・倫理学・古代キリスト教思想史、特に古代末期に生きたアウグスティヌスの「心」に関する探究について研究。著書に「アウグスティヌス「心」の哲学者」(岩波新書2017年)がある。「人間文化論」教育研究分野で、人口減少・超高齢化社会における生き方を支える価値観創出のための基盤となる西洋哲学思想・宗教文化を研究教育。アジア環太平洋初期キリスト教研究学会(APECSS)をリードし、今年9月には岡山大学でHealth, Well-being, and Old age in Early Christianityというテーマの国際研究集会を開催する。

Kazuhiko DEMURA



学生と教員それぞれが夢を語り、
希望を語る環境を。

考古学・博物館学

光本 順



津倉古墳の発掘作業 (2018年3月)



例えばこの津倉古墳は、墳長38・5メートルと特別大きいわけではない(参考:同時期の岡山県の浦間茶臼山古墳は墳長138メートル)。しかし、有力墳の証でもある青銅鏡が見つかり、石室に使われている石材の量は巨大な古墳にも匹敵するほどだ。当時吉備では有力墳の一部で安山岩を使うのが流行しており、津倉古墳でも香川県の安山岩が使用されていた。光本准教授は「当時、津倉古墳の南側はすぐ海で、海を越えたネットワークの中で生きていた人だったのか

最新技術と新たな視点で 過去を読み解く

2018年3月11日、岡山大学から約2キロ南西に位置する前方後方墳「津倉古墳」(4世紀初頭頃に築造)から1面の青銅鏡が見つかった。大きさはおよそ14センチで、被葬者の頭部付近とみられる場所から出土した。日本列島で製作された倭製鏡の一つと推定される。

発見したのは大学院社会文化科学研究科の光本順准教授(考古学・博物館学)の研究室。13年度に測量を行い、14年度から発掘調査を始め、5年目の成果だ。「詳細な築造時期や歴史的意義、被葬者の社会的なネットワークの特定に繋がる」と光本准教授は話す。古墳には歴史を紐解くさまざまなヒントが隠れている。日本において墓という概念は古墳時代よりずっと前から存在していたが、そのほとんどは集団墓であった。特定の人にとりわけ丁寧に埋葬されるようになったのは、弥生時代後期後半(2世紀)ごろで、古墳時代にかけて古墳の形状や埋葬方法、副葬品などに決まった方式が見られるようになる。どのように埋葬されていたのか、どういった石材を持ってきたのかなど、さまざまな点を調べていくことで、被葬者の社会的な位置付けまで分かってくるという。

- 1 津倉古墳で出土した青銅鏡 (2018年3月14日)
青銅鏡は2つに割れた状態で出土した。大学へ持ち帰り、クリーニング作業を行った後、詳しい調査を行う。
- 2 調査の報告書
現地での測量調査や発掘調査を終えた後は報告書を作成。教員だけでなく、調査に携わった学生も執筆に加わる。

もしれない。もしかすると讃岐から吉備への石室石材供給にも関わった人物なのかもしれないですね。想像が膨らみます」と期待を込める。

研究室ではデジタルカメラによる写真測量や、三次元レーザー計測など、最新技術も取り入れながら発掘調査を行っている。従来の二次元の等高線図では分かりにくい古墳の形状を読み取ることができ、デジタルデータは博物館などで活用することも可能になる。

考古学は過去の不変の事実を研究する学問だと思っても少なくないだろう。しかし、「新しい理論や研究方法が日々アップデートされている。新たな視点と技術から、定説だと思っていることを疑ってみると、新しい発見につながる」と、歴史の解明に挑み続ける。



光本 順

考古学は新たな発見がある学問

2014年度に津倉古墳の発掘調査を始めてから、最初の2年間は古墳に伴う遺物が何も出てこず、16年度ようやく土器が出土しました。そして今年、青銅鏡が見つかったときは一つ

いにこまで来たか」と、本当に興奮しました。発掘調査は地味な仕事だと思われながらも、新しい発見があふれています。古墳の状況を一番知っているのは、どんなに偉い

先生でもなく、調査している自分。そこが強みだと思うので、学生たちには考古学という学問を楽しんでもらいたいです。

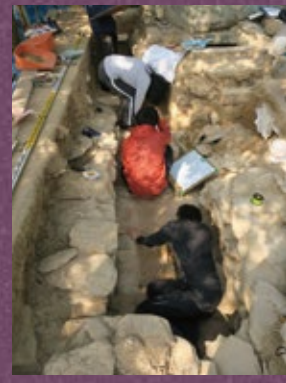
profile

(みつもとじゅん)
1975年生まれ。岡山大学文学部卒。同大学院文化科学研究科修了、博士(文学)。岡山大学埋蔵文化財調査研究センター助手・助教を経て、2012年10月から現職。専門は考古学・博物館学。



倉敷市榑築弥生墳丘墓のデジタル測量。マウスで自由に動かすことができる

吉備津彦命(きびつひこのみこと)が石橋を築き、温羅(うら)ら(鬼)の射矢を防いだ「温羅伝説」の舞台としても知られる倉敷市榑築弥生墳丘墓。全長は80メートルで、弥生時代最大級の墳丘墓とされている。1976～89年にかけて、本学の考古学研究室が中心となり、発掘調査を行った。2017年12月には、光本准教授らの研究グループがこの墳丘墓を三次元データ化するプロジェクトを実施。立体形状を画面上で自在に観察することが可能となった。



津倉古墳での発掘作業

2017年
倉敷市榑築弥生墳丘墓



学生時代の光本准教授。発掘調査の出土遺物を地元の子供たちに紹介。(1997年3月)

2013年
津倉古墳

津倉古墳の調査は、考古学研究室の学生約20人と実施。土の色や石の種類、堆積層の深さと細かく記録を取っていく。その記録が基礎データとして残っていくため責任も伴うが、やりがいのある仕事だという。1年目に測量調査を行い、翌年から発掘を開始。2016年度の調査で土師器壺(赤褐色の素焼きの土器)1点、17年度の調査で鉄器数点と青銅鏡が見つかった。

グローバル人材育成 特別コースについて

グローバル人材育成特別コース（Gコース）は、グローバル人材育成に向けた岡山大学独自の取り組みとして、2013年4月に設置されました。コースの位置づけとしては、所属学部で教養や専門を学びながら、同時に語学研修や海外留学・インターンシップなどを含む独自のカリキュラムを履修するいわゆる副専攻コースです。将来グローバルに活躍できる豊かな国際感覚と、グローバルリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目指しています。

現在、本コースには未来に向けてさまざまな夢を抱く学生が、文系・理系・医療系など、全学部から集まっています。同じ

志を持つ者同士、お互いに切磋琢磨、刺激し合いながら、友情という絆を紡いでいます。学部の垣根を越えたこうした出会いや交流は、学力だけでなく、学生たちのさらなる人間力向上に役立っています。

※18年5月31日までの本コース延べ人数は500人を超える。

※通常の学費を納めていれば、それ以上の費用はかかりません。
（語学研修・留学などにかかる費用は自己負担）

岡山大学で育成する「グローバル人材」とは

高度な語学力や幅広い知識はもちろん、それを用いて円滑に人と対話できる力、自分で考え判断できる力、積極性や行動力など、グローバルリーダーの土台となる素養を身につけた人材です。本コース

の学生は、プラスアルファのスキルと人間力で、所属学部でも先導的役割、いわゆるキーパーソンとして活躍することが期待されています。

SDGs達成に向けた岡山大学の取り組みの1つ

本学は17年12月26日、第1回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。SDGs（国連の持続可能な開発目標）では持続可能な世界の目標として、貧困・保健・衛生、経済成長と雇用、不平等、気候変動などへの取り組みを挙げていますが、これらのSDGsを実現するには高い専門性と異文化理解を有するグローバルな人材の活躍が欠かせません。本コースはそのような人材を育成するコースとなっています。

「高度実践人」にも多数認定

本コースから、本学が認定する「高度実践人」として、多くの学生が認定されています。高度実践人とは、教養科目や専門科目の学修成果と実践経験、海外経験などを指標化し、実践の現場で役立つ実践人を認定する本学独自の制度です。認定された学生には「高度実践人認定証」が授与されます。

コース出身者の活躍の場は広がっています

18年3月には第2期生までが卒業し、外務省、内閣府、地方公務員、教員、三井物産、川崎重工、三井住友銀行、パナソニック、大学病院、外資系企業、大学院進学など、さまざまな舞台で活躍しています。

世界に羽ばたける力をつける

グローバル人材育成 特別コース

その魅力に迫る！

入学〜修了までの流れ



充実した独自のグローバルプログラム

英語力養成プログラム(SPACE)

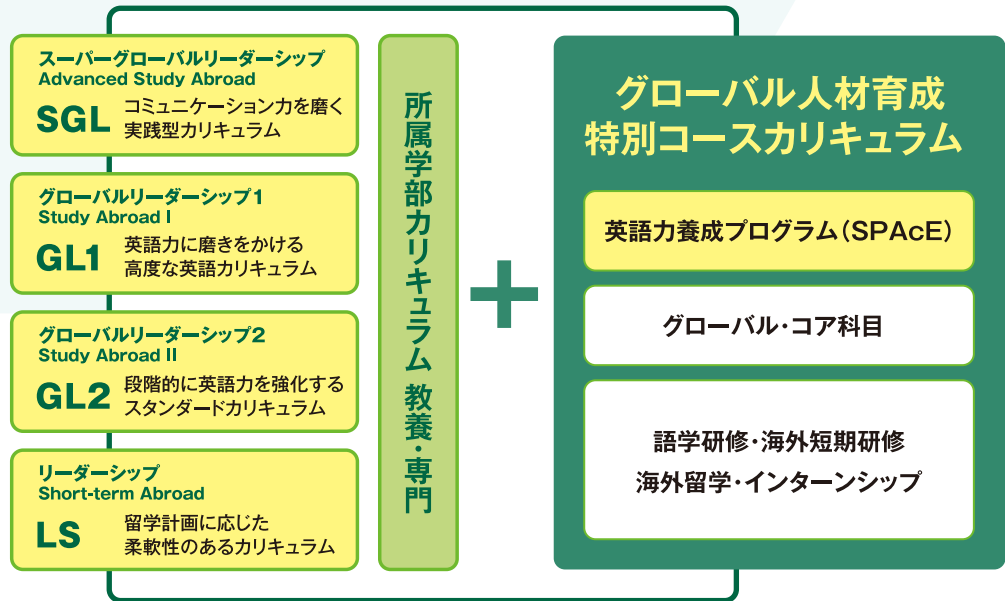
海外留学に対応できる水準まで英語力を引き上げるため、1年次を中心に4技能(読む・聴く・書く・話す)を徹底して鍛える高度な英語授業で構成。その多くをネイティブ教員が担当し、コース生は実践的な英語授業を通じてスキルアップを目指します。

グローバル・コア科目

海外留学に備えて異文化・日本文化・自然科学のほかグローバル社会の在り方への教養と理解を深める授業や、専門分野を英語で学ぶ授業、クリエイティブな思考力・想像力・コミュニケーション力を養う授業などバラエティ豊かな内容となっています。

語学研修・海外短期研修・留学・インターンシップ

コース生は個々の学修計画に応じて、短期の語学研修から長期の海外留学まで多様なプログラムを利用し、海外に臨みます。



語学基準と留学スタイルで英語カリキュラムが異なる4つのグループに分かれて学びます。

先輩たちの声

専門性を身につけながら目標を明確に、実りある大学生活に。

Gコースで頑張ってみようと思った理由は、二つあります。一つは英語力を身につけたい。もう一つは英語力にプラスして、海外の歴史や文化をもっと学びたいと思ったからです。語学研修は中国・長春に2週間滞在しました。現地では中国・韓国・日本から参加した学生と一緒に、英語をはじめ中国の歴史や文化、経済などを学びました。書道や格闘技を習ったのも楽しい思い出です(笑)。Gコースで学んで思うのは、ディスカッションやスピーキングのスキルが伸びたこと。自分から発信する積極性が高まったと感じています。最後にこれからGコースを目指す人に伝えたいことがあります。ぜひ学部でしっかり専門性を身につけながら、自分が成し遂げたい目標を明確にして、限られた大学生活を実りのある時間にしてください。

理学部化学科3年
有本 日南人
ありもと ひなと

プロフィール
静岡県立浜松西高等学校出身。1年生の夏に吉林大学、春にチェンマイ大学、2度に渡る語学研修・海外短期研修を経て、3年生となった今年の夏に約6週間、IAESTE海外インターンシップ制度にて、ポーランドの研究機関でのインターンシップを予定している。

やりたいことができるのはココ! 学部を越えた新しい出会いもある。

高校の頃から留学するのが夢で、Gコースの存在を知ったときは、「自分がやりたいことができるのはココだ!」とひらめきました。実際、夢だった留学を大学の手厚いサポートでしっかり実現できました。留学先として選んだグアム大学には約4ヶ月間留学しました。ここでは語学の壁にぶつかって、自分がかかりすることもありましたが、アメリカ人の友人ができて、誕生日を祝ってもらったり現地での生活が楽しくなると、次第に英語力も上達してきて、最後は自分の意見を言うようになりました。留学を体験してから自分でも行動力がついたと思います。友達にも「たくましくなったね」と言われました。今は国際法のゼミに入ってさらに英語力を磨いています。ちなみにGコースで出会った友達がきっかけでピアノ部にも在籍しています。こうした学部の垣根を越えているいろいろな人と出会えるのもこのコースの魅力です。

法学部法学科3年
井手 葵
いで あおい

プロフィール
愛媛県立三島高等学校出身。1年生の夏、カーティン大学シンガポール校の語学研修・海外短期研修に参加。2年生の夏から約4ヶ月間、EPOK(岡山大学交換留学制度)を利用して、グアム大学での留学を経験した。

HISTO+REAL

HISTORY OF OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学が歩んだ歴史。

Vol.3 1947-1965

津島キャンパスの変遷

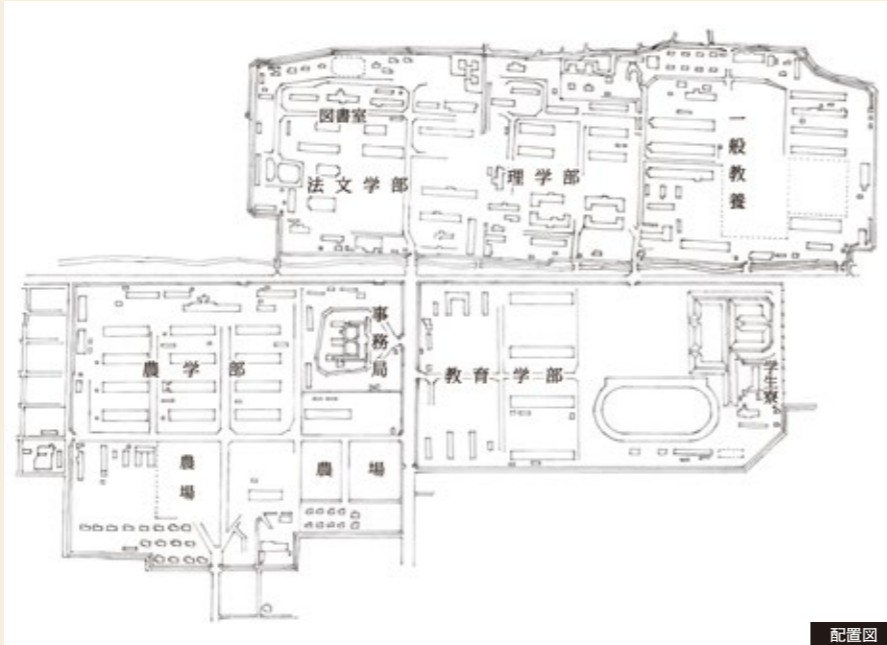


発足当時の法文学部正門（現在の西門）

工事までの道のり

1947（昭和22）年11月18日に開かれた岡山総合大学設立期成会の総務部会において、大学は旧48部隊跡の施設を利用して建設すること、資金は県民からの寄付金をもって充てることが決定されました。最終的な建設計画によると、必要な資金は校舎改造費や整備費、備品費などを含む総額約3億円（当時）。この資金を集めるため、設立期成会と岡山大学施設整備委員会は県民へのパンフレット配布や街頭での募金、小中高校のPTAへの協力依頼など、奮闘を重ねます。その意気込みはさまざま、県民へタバコ1箱節約運動を呼びかけたともいわれています（当時タバコ1箱は約50円）。また、岡山大学の前身となる岡山医科大学、第六高等学校、岡山師範学校、岡山農業専門学校（学生らも「岡山総合大学建設促進学生連盟」を結成し、設立期成会と協力して県内各地へ赴き協力を働きかけました。50年には、米国在住の県内出身者からも多額の寄付が寄せられました。岡山大学の誕生には、県民のみならず米国在住者の協力がありませんでした。

資金調達と並行して施設設備の整備を進めるべく、設立期成会は48年秋までに関係学校と協議して、津島地区の東西に延びる通りより北側に一般教養・理学部・法文学部・南側に教育学部・農学部事務局を置くことを決定しました。しかしながら明治末期の建築は老朽化が激しく、隙間だらけの部屋もあったほど。研究室や教室として使うには大幅な内部改造が必要で、同年11月から始まった工事は、開学の直前までかかったといえます。開設当時の津島キャンパスの配置図は次のとおりです。



配置図

大学シンボルの誕生

岡山大学のシンボルともいえる中央図書館の時計台。しかし開設当初、この時計台はまだできていませんでした。

附属図書館は岡山大学設立とともに、第六高等学校図書室を母体として発足します。しかし、津島地区の中央には図書館としての適切な建物



最初の附属図書館建物

教育学部棟の変遷

が無かったため、地区東北隅にあった厩舎を改築して、附属図書館とすることになりました。現在の位置に移ったのは59年3月。その6年後となる65年3月、本学のシンボルである時計台が完成したのです。



現在の附属図書館建物

開設当初、教育学部は津島地区東キャンパス（現在の一般教育棟、南福利施設あたり）に位置しており、本拠として応急的に木造2階建てが4棟並立した校舎を使用していました。教育学部は全学から教員免許状取得希望者が集まる科目があり、大勢の学生を収容できる大きな建物が必要であると考えられたためでした。

現在の位置には、教養部（94年に廃止）の建物がありましたが、65年度からこの位置に教育学部の新校舎として鉄筋コンクリートの建設が進められます。当初の案では新校舎は法文学部の敷地に移される予定でしたが、文部省の提案もあり、教育学部と教養部が敷地を交換することになりました。

参考文献：岡山大学二十年史、岡山大学50年小史、岡山県の近代化遺産

当時の面影残る建物

岡山大学は1949（昭和24）年5月31日、約20万坪の土地から始まります。それから約70年経ち、緑あふれる美しいキャンパスに成長しましたが、当時はどのような姿だったのでしょうか。



情報展示室（1911（明治44）年建築）
南北を走るいちょう並木のすぐそばには、そりと建つ小さな建物。かつての建物は陸軍の徴兵所として使用されていました。基礎部分はれんが造りで木造平屋建てとなっていました。2007年5月、国登録有形文化財（建造物）に指定されました。現在は、一般の方も入れる情報展示室となっています。

文学部考古学資料室（1911年建築）
多くの考古資料が収められている考古学資料室。れんが造りの平屋建てで、かつて工兵第10大隊などの浴場として使用されていました。大きな窓があり、開放的な設計となっています。

工学部15号館（1911年建築）
1号館から21号館まである工学部のうち、11、15、16号館が旧陸軍の遺構です。中でも15号館は、現存するキャンパス内の戦争遺構としては当時の姿を最もよく残しているといわれています。建物内部は改修され、現在は講義室などが入っています。旧陸軍兵器補給廠（ほきゅうしょう）の炊事場として利用されていました。

大学院環境生命科学研究科がベトナムに海外事務室を開室

CAMPUS

本学大学院環境生命科学研究科は3月9日、ベトナム・ホーチミン市第3区に海外事務室を開室し、同日、開室式を行いました。この事務室は、ベトナム・ドンナイ省科学技術局とのさらなる交流強化の一環として、同局の全面的な理解のもと、開室に至りました。開室式には、同研究科の舟橋弘晃研究科長のほか、ドンナイ省科学技術局とホーチミン市・ノンラム大学の関係者らが出席。開室式終了後に開催した祝賀会には、ベトナムの行政機関や大学の関係者も出席し、開室を祝うとともに、今後のさらなる交流や共同研究の可能性について歓談しました。



岡山大学病院が厚生労働省指定「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定

MEDICAL

がん患者の遺伝子情報に基づき、最適な薬品や治療法を選ぶがんゲノム医療の中心的な役割を果たす「がんゲノム医療中核拠点病院」として、岡山大学病院が選定されました。厚生労働省の検討会が2月14日に選定したものです。がんゲノム医療中核拠点病院は、がんをはじめとするさまざまな病気の遺伝子検査や治療法の選定などを担当する中心的な医療機関であり、研究や新薬開発、がんゲノム医療に携わる人材育成の役割も担います。全国の23病院から申請があり、岡山大学病院のほか11施設が選定されました。



平成30年度岡山大学入学式、大学院入学式を開催

CEREMONY

本学の入学式が4月2日、ジップアリーナ岡山で開かれ、学部・大学院生ら計3,453人の新生がキャンパスライフの第一歩を踏み出しました。横野博史学長が「皆さんとともに築くこれからの岡山大学の未来が、これまでの本学の歴史や伝統を超えるものとなり、皆さんにより大きな誇りと自信をもたらすことを期待している」と式辞。新生を代表して医学部の近藤大翔さんが「夢や目標を持つ中で、苦しいことや辛いことがあるかもしれないが、仲間と協力し合いスキルを高めていきたい」と宣誓しました。

第15回全日本学生落語選手権で落語研究会の大森さんが審査員特別賞

CLUB ACTIVITY

2月17～18日、岐阜市で開かれた「第15回全日本学生落語選手権『策伝大賞』」で、本学落語研究会の大森菜々子さん（法学部3年）が大賞に次ぐ「審査員特別賞」に輝きました。約1,400人の観客を前に「風流亭 甘鶏母（ふうりゅうてい かんとりーまむ）」という名で高座に上がった大森さんは、「堪忍袋」という演目の古典落語を披露。審査員の桂文枝師匠や立川志の輔師匠からは、「時事ネタを盛り込んだところが良かった」と評価されました。



新見市と寄付講座の設置に関する協定を締結

CEREMONY

本学と新見市は3月29日、寄付講座「岡山県北西部（新見）総合診療医学講座」の設置に関する協定を締結し、本学津島キャンパスで調印式を開催しました。同協定は、地域医療に関する教育・研究拠点を設置し、地域医療の向上に寄与することを目的としています。横野博史学長は「本学が推進しているSDGsの一環であり、大学の使命である人材育成・地域貢献に繋がる」と述べ、新見市の池田一二三市長は「地域医療の充実と発展に貢献し、地方創生の一助となる」と、寄付講座開設に対する期待を表明しました。



国連が年に一度開催するSDGsの世界会議で本学のSDGsに懸ける想いを世界に発信!

GLOBAL

本学は昨年12月、政府主催の第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を国公立大学で唯一受賞しています。今回、受賞団体の取り組みを紹介する「国連SDGsアクションキャンペーン」の年に一度開催する世界会議「持続可能な開発のためのグローバル・フェスティバル・オブ・アクション」が3月21日～23日、ドイツ連邦共和国のボンで開催されました。会議では「Japan's SDGs Award - SDG Studio, Global Festival of Action for Sustainable Development 2018」のセッションが設けられ、本学から横井篤文副理事・上級UGAが登場。これまでの本学におけるSDGsにおける取り組みとともに岡山から世界に向けてSDGsを強く先導していくメッセージを発信しました。



平成29年度岡山大学学位記授与式を挙行

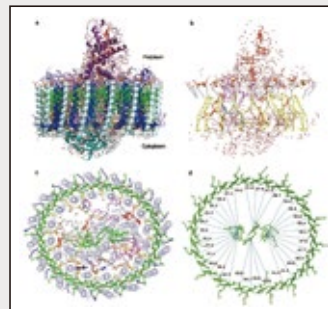
CEREMONY

本学は3月23日、平成29年度学位記授与式をジップアリーナ岡山で行い、学部生・大学院生ら計3,198人の門出を祝福しました。式では横野博史学長が学部・研究科などの総代21人に学位記・修了証書を授与。横野学長は「この先激しく変わりゆく時代が待ち受けているが、本学の伝統と精神をこれから先も変わらず持ち続けてほしい」と式辞。卒業生・修了生を代表し、マッチングプログラムコースの和田綾乃さん、大学院医歯薬学総合研究科の大谷理浩さんが答辞を述べました。



光合成細菌光捕集タンパク質複合体の正確な三次元原子構造を解明—光エネルギーの高効率利用に前進—

RESEARCH



異分野基礎科学研究所の于龍江特任助教、沈建仁教授らの研究グループは、光合成細菌において光エネルギーを捕集し、電子伝達を行っている巨大な膜タンパク質複合体LH1-RCの立体構造を、大型放射光施設SPring-8を利用して高分解能で正確に突き止めました。このタンパク質複合体は光合成において、太陽光エネルギーを高効率で吸収・伝達し、電荷分離を行っており、光エネルギーを化学のエネルギーに変換する役割を担っています。本研究成果は4月4日、英国の科学雑誌「Nature」に掲載されました。

PICK UP! 岡山大学古本募金の導入について

本学は、岡山大学学都基金の新たな募金方法として、岡山大学古本募金を導入しました。これは、皆さまから読み終えた本をご提供いただき、その査定換金額を岡山大学学都基金に寄付する取り組みです。皆さまからの寄付金は、本学のイノベーション創出、学都創成・グローバル化の推進に役立てられます。申し込みは、WEB・電話いずれの方法でも可能です。また、中央図書館の1階ロビーには、古本回収ボックスも設置しています。

詳しくはこちら
<http://kishapon.com/okayama-u/>

2017年度 大学の動き(11～3月)	
11月	2～3日 ●横野学長らが本学のSDGsとESDの取り組みを発信するためユネスコ本部を訪問 3～5日 ●大学祭(津島祭、鹿田祭)を開催 18日 ●平成29年度岡山大学解剖体慰霊祭を挙行 21日 ●本学附属図書館が岡山市文化奨励賞を受賞
12月	5～7日 ●SDGsの達成に向けた世界初の国際会議を開催 13日 ●西日本初の大学拠点「教職員支援機構岡山大学センター」を開校 看板除幕式を挙行 26日 ●岡山大学が第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞!! 国公立大学では唯一 28日 ●大学院法務研究科のプログラムが文科省「平成30年度法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」で最高評価
1月	20日 ●第1回ジャパンSDGsアワード報告会で横野学長が講演 20日 ●岡山県北地域教育プログラムキックオフ・シンポジウムを開催
2月	14日 ●岡山大学病院が厚生労働省指定「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定 28日 ●岡山大学SDGs推進本部を設置
3月	9日 ●大学院環境生命科学研究科がベトナムに海外事務室を開室 13日 ●津山商工会議所との包括的連携・協力に関する協定を締結 22日 ●「学生文化奨励賞・学生スポーツ賞」授与式を挙行 23日 ●平成29年度岡山大学学位記授与式を挙行 29日 ●新見市と寄付講座の設置に関する協定を締結 30日 ●「岡山大学臨床研究審査委員会」が特定臨床研究を審査する委員会として厚生労働省より認定取得
2018年度	
4月	1日 ●大学院ヘルスシステム統合科学研究科を設置 2日 ●平成30年度岡山大学入学式、大学院入学式を開催

岡山大学東京オフィスが 移転しました!



品川、浜松町から1駅の田町駅前に移転

岡山大学東京オフィスは平成30年4月、JR田町駅前のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)に移転しました。
JR品川駅、浜松町駅から1駅の位置にあり、新幹線からも飛行機からもアクセス良好です。



在学生の就職活動や教職員の研究活動の支援、 卒業生のフォローアップなど、さまざまな活動をサポート!

スクリーンやプロジェクター、パソコンなどの設備のほか、打ち合わせスペースやロッカールームも完備。また、休日でも利用可能な会議室や共有スペースもあります。

設備

- ・視聴覚設備 スクリーン・プロジェクター使用可能
- ・パソコン、コピー機設置
- ・インターネットへの接続環境あり
(学内専用ホームページも閲覧可能)



ぜひ、お越し
ください!

東京オフィス利用時間

9時30分～18時15分(土・日・祝休日を除く)

※常駐職員の出張・外出等で利用できない場合がありますので、
利用の際は念のため、下記連絡先まで事前にお問い合わせください。



本学の学生、教職員、卒業生なら
どなたでも利用可能です。

会議室・共有スペース

CICには大人数で利用できる有料会議室や、
無料で使える共有スペースがあります。(※要事前予約)

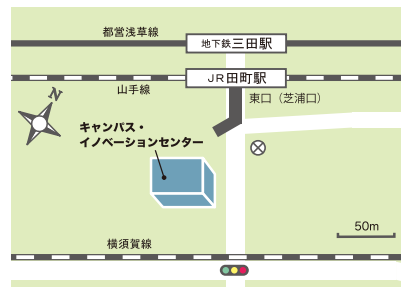
有料会議室: 国際会議室1(最大132名収容)、多目的室1～4(42～72名収容)

無料スペース: 501号室(A・B)、508号室(A・B)、509号室(A・B)

情報交換スペース: 3F(机8・椅子32)、4F(机8・椅子32)のエレベーター前スペース

利用時間: 9時～21時

(原則として毎日、年末年始および大学が定める休業日等を除く)



岡山大学東京オフィス

詳しくは
こちら

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター(CIC) 6階 601号室
TEL:03-6225-2905 FAX:03-6225-2906
E-MAIL: o-tso@adm.okayama-u.ac.jp

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/satellite_office.html



学 章

岡山大学広報 いちよう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行 : 岡山大学 総務・企画部 広報・情報戦略室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

